

# 小平市立小平第八小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的

この調査は子どもたちへの学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生を対象に実施しています。今年度は、4月21日（火）に実施いたしました。

## 2 調査内容

調査は大きく分けて、学習状況を見る調査と生活習慣や学習環境などを見るアンケート調査があります。

### (1) 教科に関する調査

#### ●主として「知識」の力を見る国語A、算数A

身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

(例) 漢字の読み書き 文法 短い文章の読み取り 計算問題 図形の書き方 立体の体積

#### ●主として「活用」の力を見る国語B、算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

(例) 長文の読み取り 作文 計算方法を式や言葉で説明 順序立てて問題の解き方を考える

#### ●主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

(例) メダカの雌雄を見分ける方法 実験結果を基に自分の考えを改善

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲や学習環境、生活の諸側面に関することを児童がアンケートに答える形の調査です。

(例) 朝食や睡眠に関する質問 テレビの視聴時間やインターネットをする時間  
家族や地域で過ごす時間について 学校の学習や生活について など

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

国語Aの正答率は全国平均を8.3ポイント、国語Bの正答率は全国平均を7.3ポイント上回った。特に、計画的に話し合う問題についての正答率が高かった。

国語Bに関しては、「書くこと」の領域に関わる問題の正答率が低かった。漢字の書き取り問題は、少数の児童ではあるが無回答であった。

#### 課題

漢字や言葉についての知識がしっかりと身に付いていない児童がいる。

正答率の低かった問題については、「話し手の意図と自分の意見を比べ、まとめる」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」ことができないなどの理由が考えられる。授業の中で、思考力や表現力を育てていく必要がある。

### 学校で取り組む具体的な改善策

週一回設定しているモジュール（朝の15分間の学習）を利用して、漢字や言葉についての知識をしっかりと定着させていく。国語の授業の中で、「目的や意図に応じて、内容の中心がどれか明確にする」ことで「自分の考えをもち、表現する力」を育てていく。また、討論やグループ学習を意図的に設定し、話し手の意図と自分の意見を比べられるように、学習形態や学習方法を工夫していく。さらに「的確に読み取る力」「優れた表現」を身に付けるために読書活動を大切にしていく。（週一回の読書タイム 読書旬間の取組）

## 【算数】

### 状況の分析

算数Aの正答率は全国平均を8.5ポイント、算数Bの正答率は全国平均を10.5ポイント上回った。中でも、「量と測定」の領域の正答率が高かった。

しかし、算数A・Bともに簡単な計算ミスが目立った。また、答えに至った根拠を述べる問題では正答率が低かった。

### 課題

計算力を着実に身に付けさせることが重要課題である。

また「情報とグラフを関連付けて解釈する」「条件に対して判断する」ことなど「数量関係」の領域を苦手とする児童が多い。授業の中で、グラフの読み取りや根拠を見付け出す数学的思考力を身に付けていくことが必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

週一回設定されているモジュール（朝の15分間の学習）等を利用して、計算方法や基本的な知識をしっかりと定着させていく。算数の授業では問題解決型学習を実践し、「既習事項を活用して自ら問題を考える」「自分の考えを分かりやすく伝える」「友達の考えを聞き、自分の考えを深める」ことを大切にしている。習熟度別指導を実施し、習熟度に合わせて「今までの学習を復習しながら進む」「教科書の内容を中心に進む」「多様な考え方を話し合ったり、発展的な問題にも挑戦したりする」などの指導方法を工夫する。その中で、東京・ベーシックドリルを活用する。

## 【理科】

### 状況の分析

理科の正答率は全国平均を7.7ポイント上回った。

科学的な思考・表現では電流の流れ方や濾過の適切な操作方法に関する問題で正答率が高かった。

しかし、学習した様々な内容を関係付けながら、考察する問題で正答率が低かった。

### 課題

実験結果を基にして分析をし、考察することが苦手な児童が多い。まずは復習を行い、既習事項を定着し直す必要がある。「既習事項と事象・現象を関係付け、共通点や相違点を明らかにする」また、「分析されたものの必要性を検討して、考察につなげていく」ことができるような場面を設定する必要がある。

### 学校で取り組む具体的な改善策

理科の授業では、知識・技能が確実に習得できるようにした上で、観察、実験を中心とした問題解決に取り組む必要がある。問題解決型学習「予想→観察・実験→考察→結果」という一連の流れの中で、意図的に話し合いの場を設定することで、主体的な学びにしていく。自分の考えをしっかりとらせる時間をとり、自分の考えと他者の考えの違いを捉え、多様な視点から自分の考えを見直したり、振り返ったりすることにより、多角的に考察し、より妥当な考えをつくり出していけるような指導を工夫する。

## 【生活や学習環境に関する質問紙調査】

### 状況の分析

「朝食をとる」「決まった時刻に寝たり、起きたりする」といった規則正しい生活習慣が身に付いていて、規範意識が高い。

「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童が多い。

「宿題をする」と答えている児童はほぼ100%である。

### 課題

少数ではあるが、基本的な生活習慣に課題のある児童がいる。

キャリア教育の実践により「夢や希望を持ち、目標に向かって努力する」ことができてきてはいるが、自己肯定感の低い児童に対して、自尊心を高める手だてが必要である。読書量が少ない児童に対しても読書をする習慣付けが課題である。

### 学校等で取り組む具体的な改善策

全教職員で一致した生活指導を行うことで、生活習慣や規範意識を身に付けさせていく。また家庭にも学校での指導について説明し（保護者会・便り等）協力を呼び掛けていく。

キャリア教育を充実させ、あらゆる教育活動の中で「働き・奉仕する力」「コミュニケーション力」「自己理解・実行力」を身に付けさせていく。多くの人と関わり合いを設定し、互いに認め合う活動を通して、自尊心を高めていく。

読書旬間や朝読書など、本に親しむ取組の中で、読書への興味を広げていく。